

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	MK	学部・学科	国際教養
学 年	3	派遣国	オーストリア
派遣大学	ウィーン大学		
期 間	2025 年 10 月 1 日～ 2026 年 9 月 30 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / <u>アパート</u> / その他 ()					
部屋	<u>個室</u> / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	◎
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (8 万 3,200) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(バスと地下鉄とトラム) で、約 (50) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	33000 円	
学用品購入費	0 円	
交通費	3000 円	
交際費	5000 円	
その他	160000 円	
合計	199000 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

ウィーンで少し危ないと言われている 10 区の一部を除けば、日中はどこも警戒しないで歩くことができました。中心地は夜に 1 人で歩いても安心感があり、そうでなくても知っている道なら怖くはなかったです。路上や駅でお金を待っている人はどこにもいますが、危害を加えられる心配はありませんでした。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(12) ヶ月間	保険料	(127,640) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	Österreichische Gesundheitskasse		
加入期間	(8.5) ヶ月間	保険料	(月 14,587) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (**ウィーン**)

ウィーンはどんな街と聞かれたら、数々の歴史的建造物の周りに、居心地の良い緑に溢れた場所のある街と答えます。

ウィーン大学のメインキャンパスはウィーン中心地にあり、その周辺は、宮殿や多くの美術館、教会や国会議事堂などの美しい建物があります。もちろんレストランやカフェもたくさんあります。オーストリアの首都なので、日本では東京に値しますが、そこはウィーン、東京のビル街のような近代的な見た目の建物はほぼなく、伝統的な見た目の建物ばかりです。そのような美しい景色ももちろんですが、私のお気に入りにはなんといっても、市内にある数々の庭園や芝や木々に溢れた公園です。暖かくなれば、芝ではピクニックや日光浴をしている人たちが多く、ベンチもたくさんあり、のんびりするのにぴったりです。街の緑の多さが、健康的でゆったりとした暮らしをつくりあげていると感じます。

ドナウ川を地下鉄 U1 で越えると、国際機関などの入った近代的な高層ビルが、車窓から見られます。ウィーンで 1 番大きなショッピングモールも、ドナウ川向こうにあります。

また、芸術が好きな人にとっては、夢のような日々を過ごすことができます。市内にはほんとうにたくさんの美術館や博物館があり、学生割引が効くし、色々な美術博物館を巡る場合には、お得な年間パスもあります。ウィーン交響楽団の無料演奏会も、人混みが激しいですが、年に数回ありますし、オペラ座だけでなく、ミュージカルシアターも様々あります。私は、立ち見チケットをお得に、また通常より 1 日早く買える会員になり、ウィーン国立歌劇場で何度もオペラやオペレッタ、バレエを観に行きました。立ち見できる体力があり、何度もオペラ座に通う予定の人にはおすすめです。

【学業編】

1. 大学情報

大学	ウィーン大学	所在地	Universitätsring 1, 1010 Wien
最寄空港	ウィーン国際空港	空港からの距離	20km
空港⇄大学	(ウィーン国際空港→Flughafen Wien *バス→Donaumarina *地下鉄→Shottentor *徒歩→ウィーン大学) *移動手段		
学生数	約 85,200 人	留学生数	約 29,500 人
学部	カトリック神学部 プロテスタント神学部 法学部 経営・経済・統計学部 情報学部 歴史・文化学部 言語・文化学部 哲学・教育学部 心理学部 社会科学部 数学部 物理学部 化学部 地球科学・地理学・天文学部 生命科学部 *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	African Studies *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (10)月～(1)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		Literature Survey 2	日本語の文法 の授業での TA		
午後	Language in African Cultures and Societies	Introduction to African Environmental History	Feminist Philosophy Climate Change and Climate Crisis		

② (3)月～(6)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	Language, Politics and Development in Africa	日本語の文法 の授業での TA			
午後			日本語の会話 練習の授業で の TA	African Poetry Workshop	

3. 履修内容

科目	Language in African Cultures and Societies		
履修期間	Winter Semester	単位数	4
授業内容／形態	アフリカにおける言語、文化、社会の相互関係を探究し、様々な分野におけるアフリカ言語の発展とエンパワーメントを考察する。 講義、ディスカッション		
成績	2		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Feminist Philosophy		
履修期間	Winter Semester	単位数	5
授業内容／形態	現代フェミニストの哲学の主要な概念と議論を扱う。性別、ジェンダーアイデンティティの本質と重要性、インターセクショナリティ、客体化、ポルノグラフィ、意識向上、脱植民地化フェミニズムなどについて考察する。 講義、ディスカッション		
成績	5		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Climate Change and Climate Crisis		
履修期間	Winter Semester	単位数	5
授業内容／形態	気候変動とその（非）生物的環境及び人間の生活への影響について、学祭的な視点から考察する。 講演		
成績	2		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		

	担当教員	
--	------	--

科目	African Poetry Workshop		
履修期間	Summer Semester	単位数	6
授業内容／形態	詩の芸術を通してアフリカ文化を理解する。創作した 10 遍の詩を含めたポートフォリオを提出する。 ワークショップ		
成績	2		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

留学を通じて、「異文化に適応する」という言葉の意味について考えさせられました。ウィーンに来る前は、その言葉はウィーンに住む人の生き方の真似をし、あたかも現地の人のように振る舞うことが自然になることだと思っていました。しかし、いざオーストリアに行って最初に知り合ったのは、日本やドイツ、ルワンダから来て、その人たちらしくウィーンで暮らしている人たちでした。大学で知り合ったのも、ウィーン出身の人よりも、他の場所から来た人の方が多いです。そして、その人達らしさを誇りに思いながら暮らしていることに気がつきました。

特にそれについて考えさせられたのは、ルワンダ出身のクリスチ안의友達に誘われて、日曜に教会に行ったときです。日曜礼拝で見たことがあるのは、牧師が前で聖書を読み、それを信者の人たちが繰り返すという、厳かなものです。しかし、アフリカから来た人たちが集まる、その友達が連れて行ってくれた礼拝では、バンドとコーラスが舞台に立ち、みんなが立ち上がり情熱的な歌とダンスでお祈りをしていました。アフリカという共通項で繋がり、それを祝福し、キリスト教徒でもアフリカンでもない私をも歓迎してくれました。

私がその中で思ったのは、異文化に適応するとは、自分を丸々変えることではなく、新たな土地で生きていく力、私の場合は、ウィーンで生きていくにあたって足りなかった、積極性や度胸、自己主張をする力などを手に入れつつも、自身の文化的背景を認め、自分にとって心地よい生き方を見つけていくことだと感じました。

確かに、新たな生活に適応した点を挙げれば枚挙にいとまがありません。強めに言う必要があると感じたとき（日本にいるときよりもかなりたくさんありました）には、いつもより率直な言い方を選んだり、頑として主張を変えなかったりしたりしました。公共交通機関の遅れやイレギュラー、私ほど周りを気にしない人たちに対して神経質になりすぎなかったり、バスやトラムが止まる前に出口のボタンを押しに行ったり、スーパーでの整然としない商品棚や物が腐っていないかの確認にも慣れたり、お店の人への挨拶や、ときには小談話を楽しんだり。しかし、すべてを受け入れられたわけではありません。特に、遊びの予定や家賃契約まで、様々な約束を守らないという点では、本当に苦労しました。そのようなことについては、周りがそうだから私もそうなるのではなく、自分の好きな自分でいるために、取り入れなかったことのひとつです。

実は、ウィーンに来たばかりの頃は、私が住んでいるところにアジア人が全然おらず、周り自分と違うことで悪目立ちしていると感じ、俯いて道を歩いていました。しかし、時とともにウィーンにいる自分が普通になり、周りの人も私が思っているより全然私を異質扱いしていないことが分かり、私は私として堂々とすればいいんだと思うようになりました。街中では分かりませんが、私の住んでいたところでは、フラットメイトのルワンダ人と日本人というような、黒人とアジア人が一緒にいる姿はついぞ私たちしか見たことがなく、視線を感じることも多々ありました。「黒人とアジア人のペア、私たち以外に見ないよね」と笑い、滞在数ヶ月で、その視線を楽しむくらいの余裕が出てきました。

自分が自分であることを否定的に思っでは、自分にとって心地よい生き方を見つけていくことはできません。周り自分と違うと感じても、他人は私のことを気にしてはいない。そして、新しい場所や人間関係の中では、新たな普通があり、その規範に倣いながらも、自分を認め、自身の善意に従い、自分を大切に生きていく。これが、留學生活全体を通じて

得た、大切な人生の学びのひとつです。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

その場所の「普通」に倣いながらも、自分を認め、自身の善意に従い、自分を大切に生きていくということは、そこが自分にとって異文化かどうか、同じような見た目、規範を持った人たちがいるかどうかに関わらず、どのような環境下でも重要なことだと思います。一度異文化に身を置いた今、今後新たな場所に行っても、物怖じせずに、なんとかなると思います。そして、どのような場所でも同じように自分らしさを認め、生きていける気がします。

また、今回の留学で、アフリカ学科の授業やルワンダ出身のフラットメイトから、たくさんのことを学び、アフリカをより身近に感じられました。特にフラットメイトの話はすべて実体験に基づく、リアリティ溢れるものでとても面白く、すぐにアフリカに行きたくなりました。フラットメイトが、私が話すことには実際にルワンダに来ないと理解できないものがある、特に夏でもからっとした風を感じてほしいと言われました。私も、座学だけではわからない、文字情報だけでは理解しきれていないことが、行けばわかるはずだと感じます。今回の留学で学んだことや、培った英語力を、ゼミのルワンダへの調査実習で活かしたいと思います。そして、私の興味を中心である多言語社会の中での教授用言語や言語教育についても、授業やフラットメイトの話を通じて、たくさんの面白い学びを得ました。それについてさらに詳しく調査し、卒論の執筆に励みたいです。

また、英語科の教員免許を取得予定で、英語教師になった暁には、学生たちに英語を教えるだけではなく、英語が話せるようになるのとどのような世界が開けるのか、実際に外国に暮らしてみるとはどのようなことなのかを、実体験を基に伝えられるような教師になりたいと思います。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

留学が終わった今、何が 1 番思い出に残っているかを考えると、ウィーンで出会えた人たちのことが思いうかびます。いろんな場所に行って様々な体験をすることでも、もちろん留学により意味を持たせられました。しかし、友達とのなんでもないカフェでの会話や公園でのピクニック、いつものアパートでの会話といった日常が、ウィーンを去るにあたり 1 番恋しく思います。なにに意味を見出すかは人それぞれですが、人との繋がりには本当にかげがえのないものだと思います。誰が大切な人となるかはわからないので、とりあえずあらゆる誘いに頷いておくのが吉かと思います。

また思えば、留学前も留学中も、選択の連続でした。どのような目標を持つのか、何を勉強するか、どこに誰と住むか、どこの国に行くか、そもそも留学をするのか。自分で決めたことが正解なのか、まったくわからないまま来ました。何度も選択を誤ったと後悔するときもありました。しかし、2025 年の夏に、アフリカ学科で学ぶと、ウィーンに行くと、フラットメイトとあのアパートに住むと、周りの人の誘いにのると決めたからこそ、私はこの唯一無二の、貴重な経験ができました。選択を通じて得たものが苦い思いでも、すべてのことには起きる理由があります。そこから学びが得られたなら、それが理由です。このように、最終的にはすべての選択を、自分の力で「正解」にしていきました。何が正解かわからないなら、その選択を自分が正解にしていけばいいのです。自分を信じて、いつもとは違う選択をしてみてもいいのではないのでしょうか。

1 年は、とても短いです。目標を達成してもしなくても、終わりは決まっています。終わってみると、最終的には、すべてなんとかなるものだと感じます。思い通りにいかないことのひとつひとつにも折り合いをつけて、なんとかやっていくのです。やっていけます。そして、経験を通じて手にしたものの価値は、もしかしたらすぐにはわからなくても、歳を重ねていく中で、また新たな価値を見出すことができるはずだと信じています。